

人権「公平無私」校長講話



調布市では今月を「いのちと心の教育月間」と定め、私たちの命、心の大切さを特に意識して過ごす一ヶ月となっています。また、アレルギー事故について、調布市は特別に意識して取り組んでいます。ここに一冊の絵本をもってきました。『そらくんのすてきな給食』という本です。昨年紹介したので覚えている人もいるかもしれません。調布市で10年以上前、アレルギー事故によって一人の児童が亡くなりました。この本は、それをきっかけに、アレルギーのある子の給食の在り方について描かれた本です。皆さんにも、このような本を通じて、アレルギーについて理解を深めてもらいたいと思います。

では次に、今日の四字熟語のお話です。今日の四字熟語は「公平無私」です。「公平」は、「すべてにわたって偏りなく」という意味、「無私」は「自分だけの利益や感情にとらわれない」という意味です。誰に対しても、自分の好き嫌いと関係なく、公平にできるということ。それができるような人になりたいものです。では、「公平無私」な人とはどんな人をいうのでしょうか。

一つは、事実をありのままに見ることのできる人ではないかと思います。事実をしっかりと見つめ、何かに偏ることなく、事実を事実のままに受け止めることのできる人です。しかし、ありのままに見るというのは簡単なようで簡単ではありません。なぜなら、私たちはつい、自分の思い込みで物事を見てしまうからです。人は見たいものを見る、という言葉もあります。好きか嫌いか、損か得かと「私」の心が邪魔をして、「無私」になるのはたいへん難しいことです。ですから、公平無私的人は、自分の心に打ち勝てる強い人だともいえます。

もう一つは、周りの空気に流されない人です。必ずしも、たくさん的人が言ったからといってそれが正しいとは限りません。集団心理とは恐ろしいもので、過去にも、小さな嘘、だれかが流したデマが広がったために悲惨な出来事になった事件がたくさんあります。周りが言っているからといって簡単に信じていいのか、本当にそれは正しいのかと立ち止まって考える冷静さが大切です。公平無私といえる人は、そんなふうに周りに流されず、きちんと正しく判断できる人です。

たとえば、だれかがからかわれ、馬鹿にされ、笑われていたとします。からかわれた人は困っているのに、周囲の人も同じように笑っている、そんな様子を見て、あなたならどうしますか。誰かが恥ずかしめを受けているのを目の前にすれば、心が苦しくなるのが普通ではないでしょうか。公平無私の人なら、周囲に流されず、悪いことは悪いと正しく主張することができるはずです。つまり、公平無私は「人権を守る」ことにつながります。

12月4日から10日まで、「全国人権週間」が行われます。社会のあちこちで人権に関する取組を見ることになると思います。皆さんはぜひ、そのような取組を見かけたら今日の「公平無私」を思い出してください。自分は事実をありのままに見ているか、周囲に流されず強い心をもって、人に優しくできているか。自分の好き嫌い、損得だけでものごとをはかるような人間にならないだろうか。そう自分の心に問い合わせてほしいと思います。それが人権を守ることの第一歩となるでしょう。

さて、少し話は変わりますが、皆さんの身近にある、人権を侵害する行為として「体罰」「性暴力」というのがあります。1学期にもお話しましたが、もしそういうことがあれば、勇気を出して信頼できる大人に相談をしてください。また、今日、相談用のプリントを配りますので、それを使って郵送やメールなどで相談することもできます。「体罰」や「性暴力」を受けた人は一人で抱え込まず必ず相談をしてください。